

定員 対 面：230名(加盟校優先定員：140名)
オンライン：1000名(加盟校優先定員：600名)

対面 オンライン (Zoomウェビナー)

講義形式

学びの連続体へのまなざし～生成系 AI への耐性・代替不可能性を求めて～

教える(Teaching)から学ぶ(learning)へのパラダイム転換を指摘したBarrとTaggによる論文が公開された1995年、大学コンソーシアム京都では東京大学出版会による『知の技法』を手がかりに第1回のFDフォーラムを開催した。あれから約30年、生成系AIの台頭により、改めて学びの場のあり方への問い直しが必要とされている。短期大学と四年制大学、初等教育・中等教育から高等教育へ、さらには教養教育と専門教育、学部と大学院、大学と地域など、学びのコミュニティにおけるいくつかの連続体に関心に向け、生成系AIと共生という観点でのAI耐性を携えつつ、AIでは代替不可能な学びの場の担い手像に迫る。

シンポジスト



今村 正治氏 佐賀女子短期大学 学長

▶ 経歴

1958年大阪市生まれ。1981年立命館大学文学部卒業後、学校法人立命館職員入職。財務部長(2007年)、総務部長(2008年)を経て、2009年には学校法人立命館総合企画部長に。2014年より2019年まで立命館アジア太平洋大学副学長・学校法人立命館常務理事を務め、定年退職。2019年には学園経営コンサルタントとして今村食堂株式会社を設立し、株式会社ほほ日、札幌慈恵学園・札幌新陽高校などでアドバイザーを担う。2022年より学校法人旭学園理事・佐賀女子短期大学学長。佐賀県で3つ目の四年制大学「武雄アジア大学(仮称)」の2026年開設に向けて準備にあたる。

▶ 主な活動、著書

公益財団法人AFS日本協会理事、兵庫県公立大学法人評価委員、公益社団法人日本サードセクター経営者協会理事、京都橘大学政策アドバイザー、別府市総合政策アドバイザーなど、幅広い分野で活動。「立命館アジア太平洋大学：本格的な国際大学の誕生」(『大学行政論II』東信堂、2006年)や「多文化共生の「寮」をデザインする：APハウスの未来」(大学時報357号、2014年)など著書・論文の他、対談・インタビュー・コラム・ラジオ出演は多岐にわたる。



上田 紀行氏 東京工業大学 副学長

▶ 経歴

1958年東京都生まれ。専門は文化人類学。「癒し」の研究、日本型システムの変容、仏教の現代的展開など、現代社会の諸問題を幅広く扱い、テレビ、新聞等でも提言を行う。1989年に東京大学大学院総合文化研究科博士課程を単位取得退学、その後愛媛大学助教授を経て、1996年に東京工業大学大学院社会理工学研究所価値システム専攻准教授に着任し、2012年にはリベラルアーツセンター教授に。2016年4月より2022年3月までリベラルアーツ研究教育院長を務めた後、2022年4月より東京工業大学副学長として文理共創戦略を担当する。

▶ 主な活動、著書

東京工業大学では教育改革に深く関わり、2016年に新設されたリベラルアーツ研究教育院の初代院長として、新時代のリベラルアーツ教育を切りひらく中心を担っている。2008年に岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程にて博士(医学)の学位を取得。著書に池上彰・伊藤亜紗との共著による『とがったリーダーを育てる：東工大「リベラルアーツ教育」10年の軌跡』(2021年)の他、『がんばれ仏教!—お寺ルネサンスの時代』(日本放送出版会)、『生きる意味』(岩波書店)、『かけがえのない人間』(講談社現代新書)の他、『覚醒のネットワーク』(河出文庫)、『スリランカの悪魔祓い』(講談社文庫)、『「自殺社会」から「生き心地の良い社会」へ』(講談社文庫)、『ダライ・ラマとの対話』(講談社文庫)など、多岐にわたる。



堀江 未来氏 立命館大学 グローバル教養学部 教授 / 立命館小学校 校長

▶ 経歴

1970年愛知県生まれ。専門は国際比較開発教育。名古屋大学教育学部在学中に、交換留学生として中国・南京大学へ留学。その後、名古屋大学教育学研究科で修士、アメリカ・ミネソタ大学大学院で博士の学位(教育学)を取得。南山大学国際教育センター、名古屋大学留学生センターなどでの留学生相談指導・海外派遣留学支援担当を経て、2009年に立命館大学国際教育推進機構准教授に着任、2017年に教授。2017年からは立命館大学の附属校の校長(2017年度～2020年度：立命館小学校・中学校・高等学校、2021年度～：立命館小学校)を務め、「Interculturalist-Principal(異文化感受性を育てる校長)」として、あらゆる発達段階にある児童生徒学生の成長に寄与できるよう努めている。2023年度より立命館大学グローバル教養学部教授。

▶ 主な活動、著書

共編著として『多文化間共修：多様な文化背景をもつ大学生の学び合いを支援する』(学文社)の他、訳書として『無名大学を優良大学にする力：ある大学の変革物語』(ジョージ・ケラー著、学文社)がある。また、英語開講科目(EMI)の教育実践の経験に基づき、英語を母語としない学生のための教員研修について『English-Medium Instruction in Japanese Higher Education Policy, Challenges and Outcomes』(Annette Bradford・Howard Brown編、Multilingual Matters)で紹介している他、『大学生のための教室英語表現300』及び『大学教員のための教室英語表現300』(いずれも共著、アルク)など。

コーディネーター



山口 洋典氏 立命館大学 共通教育推進機構 教授

▶ 経歴

1975年静岡県磐田市生まれ。専門は社会心理学、特にグループ・ダイナミクス。ネットワーク型まちづくり、災害復興、サービス・ラーニングなどをテーマにアクションリサーチを展開する。財団法人大学コンソーシアム京都事務局研究主幹、浄土宗應典院主幹、同志社大学院総合政策科学研究科助教授・准教授を経て、2011年度より立命館大学共通教育推進機構准教授、2020年度より現職。

▶ 主な活動、著書

2019年度・2020年度には立命館SDGs推進本部事務局長。2022年度より立命館大学教養教育センター副センター長と立命館大学サービスラーニングセンターを兼務。著書に『ソーシャル・イノベーションが拓く世界』(法律文化社、共著)『はじめてのファシリテーション』(昭和堂、共著)など。